

## ■ 外国人留学生 出題意図（科目別アドバイス） ■

## 文学部 日本文学科・史学科・哲学科

専門の講義を理解し、文献を調べて理解し、課題に取り組むことができるかを図ることを目的に作問を行った。また、意図的に古典の内容を含む文章を選択し、本学が求める学生像を示した。日本語の文章を読んで理解する力、要点を掴んで日本語で表現する力、主張を的確に表現する力があるかを選抜の評価基準とした。岡潔氏の文章をもとに出題した令和8年度選抜においては、以下の6つの基準のもと選抜した。

- (一) 筆者の芸術に対する考え方について説明しているか
- (二) 本当の芸術とはどのようなものであるか書かれているか
- (三) 主張が述べられているか
- (四) 主張を支える具体例があるか
- (五) 論理的な文章か
- (六) 日本語は適切か

## 神道文化学部 神道文化学科

専門の講義を理解し、文献を調べて理解し、課題に取り組むことができるかを図ることを目的に作問を行った。また、意図的に古典の内容を含む文章を選択し、本学が求める学生像を示した。日本語の文章を読んで理解する力、要点を掴んで日本語で表現する力、主張を的確に表現する力があるかを選抜の評価基準とした。岡潔氏の文章をもとに出題した令和8年度選抜においては、以下の6つの基準のもと選抜した。

- (一) 筆者の芸術に対する考え方について説明しているか
- (二) 本当の芸術とはどのようなものであるか書かれているか
- (三) 主張が述べられているか
- (四) 主張を支える具体例があるか
- (五) 論理的な文章か
- (六) 日本語は適切か

## 法学部 法律学科

人（商人）は刑法・民法・商法において問題となるどころ、その解釈問題は入学後に取り上げるべきものであるから、その基本的な条文の概要・沿革を素材とする平易な問題を出題した。具体的には、歴史的な階級的身分（士農工商）を踏まえて、そのうち特に商人と現在の商人の相違について出題した。その前提として、商人は人の一種であるから、人についても出題した。問1～3は、まとめさせるもの、問4は、それを前提にして自分なりの考えを記述させるものである。問4については、自分なりの考えを論理的に主張できるかが評価の対象となり、商人が前近代的なものとなるか否かという結論はどちらであっても良く、それにより点数に差は生じない。

**経済学部 経済学科・経営学科**

総合型入試は、一般入試と異なり、「知識そのもの」を問う問題ではありません。しかし、日頃社会・経済についての程度関心を持っているかということは問われます。知識そのものではありませんが、すべて記述ではなく、いくつか考えを聞くような選択問題を提示し、その後、もう少し詳しく説明していただく記述問題を出しています。例えば、昨今の物価上昇についての考えを問われた場合、単に印象を答えるだけでなく、どのていど物価のシステムについて理解しているかどうかなどは評価の対象となります。日常で感じていることが、本当に正しいかどうかは、やはり政治経済の教科書や新聞などで確認する必要があると思います。経営についても同じことが言えます。会社の在り方について、もちろん大学に入ってから学ぶことが多いと思いますが、関心をもって自分なりにいろいろ調べたうえで取り組んでいただきたいと思います。逆に、物価の動きなどは生活している中で実感することなども重要な部分がありますから、日常の中での価格の動きなどにも注目していただきたいと思います。最後に文章の書き方についてですが、もちろん、非常に美しい日本語を書く必要はありませんが、正確に伝わる表現や、論理的な思考があるかも大切な評価基準となります。大学に入ってからどのようなことを学びたいかしっかり考え、勉強面、日常での気づき、日本語力と論理的思考力を磨いていってください。

**人間開発学部 健康体育学科**

本問題は、提示された文章を正確に読解し、筆者が主張する「社会学の存在意義」を理解したうえで、自分の言葉で論理的に説明する力を評価することを目的としている。文章では、社会学の意義が「社会と個人の行為の相互関係を捉える再帰的思考」にあることが述べられている。受験生には、この内容を適切に要約する読解力に加え、学校・職場・家庭・SNSなどの具体的な社会場면을挙げながら、自らの考えを論理的に展開する思考力・表現力を求めている。また、段落構成や字数、文体の条件を設けることで、基本的な文章構成力や日本語運用能力も総合的に評価することを意図した問題である。